サステナビリティ

環境
　住まい・エネルギー・廃棄物・地球温暖化
社会
　社員・雇用・安全衛生・
　社会貢献活動

サステナビリティ　環境

■住まい

「快適な住環境を次世代につなぐ」ことが当たり前の社会をつくる

住宅の木材の腐朽やシロアリの被害、ビル・マンションの給排水管の劣化など、目に見えないところに、大切な建物の寿命を縮める要因が潜んでいます。サニックスグループでは、「予防医学（未然に防ぐという思想）」の見地から、トータルメンテナンスを推進。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

▼重要指標の進捗状況

※1,000軒・件未満切り捨て

事業開始以来の累計実績（年度末時点）	2023年3月末	2024年3月末	2025年3月末
シロアリ防除施工軒数	830,000	835,000	840,000
給排水管維持管理施工件数	38,000	39,000	40,000

※1,000軒・件未満切り捨て

▼2024年度の取り組み事例

企業や団体との業務提携など、継続的なアライアンス強化

- 営業の間口を広げる協業（地方自治体の互助会、企業の協同組合、不動産管理会社など）
- 住宅の環境負荷低減、長寿命化につながるサービス拡充のための協業
  太陽光発電のPPA事業者、ハウスクリーニング業者、住宅設備の修理サポート業者

■エネルギー

「環境負荷の低いエネルギー」が当たり前の社会をつくる

脱炭素への取り組みは、いまや人類全員の共通課題です。日本においても、2050年カーボンニュートラル宣言以降、その流れは加速しています。私たちは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案。導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

▼重要指標の進捗状況

事業開始以来の累計実績（年度末時点）	2023年3月末	2024年3月末	2025年3月末
太陽光発電施工件数（自社施工分）	49,000	50,000	51,000

※1,000件未満切り捨て
※住宅用、産業用の合計数値

▼2024年度の取り組み事例

- 企業・団体等の太陽光発電設備施工の請け負い（九州産業大学、東港金属株式会社千葉工場など）
- 自治体の太陽光発電導入事業の事業者に選定（熊本県県有施設、徳島県鳴門市ボートレース鳴門、福岡県篠栗町北勢門校区公共施設）

九州産業大学様

東港金属株式会社（千葉工場）様

■廃棄物

「捨てない」ことが当たり前の社会をつくる

持続可能な社会づくりが社会共通の課題となる今、産業廃棄物の適正処理・管理・リサイクルは、重要なテーマです。当社グループでは、廃プラスチックの燃料化リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化およびリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

▼重要指標の進捗状況

（千ｔ）

事業開始以来の累計実績（年度末時点）	2023年3月末	2024年3月末	2025年3月末
廃プラスチック処理量	5,900	6,200	6,500
廃液処理量	2,500	2,600	2,700

※1,000ｔ未満切り捨て

▼2024年度の取り組み事例

- 廃液・汚泥から油分のみを分離回収した再生燃料「再生油Bio」の製造ラインを、従来の2倍に増設
- 廃棄業務一元管理システム「一元くん」シリーズリローンチおよび排出事業者向けシステムの利用促進キャンペーン開始

環境エース 一元くん

収運エース 一元くん

産廃エース 一元くん

■地球温暖化

地球温暖化、環境汚染、資源の枯渇といった環境問題は、地球規模での対策が必要な段階を迎え、「持続可能な社会づくり」は世界の共通認識となっています。国連で採択されたSDGs、COP21で採択されたパリ協定や欧州連合（EU）による新循環経済行動計画にもそれは明らかで、わが国においても、2050年カーボンニュートラル宣言を皮切りに、さまざまな政策が持続可能な社会構築をベースにしたものへと急速に変化しています。

▼重要課題の目標と進捗状況

GHG排出量削減目標：2030年度GHG排出量50%減（2020年度比）＝排出量12,397t-CO_2

（t-CO_2）

年度	2021（2022年3月期）	2022（2023年3月期）	2023（2024年3月期）	2024（2025年3月期）
GHG排出量	24,707	21,233	20,684	19,389

※1,000ｔ未満切り捨て

▼2024年度の取り組み事例

当社真岡工場（栃木県真岡市）に、第三者設置モデル（PPA）による太陽光発電設備を導入（PPA事業者＝株式会社VPP Japan）

PPAによる太陽光発電導入（真岡工場）
システム容量 362.97kW、年間自家消費量（予測）23,968kWh、
年間CO_2排出削減量（予測）約121.82t-CO_2

サステナビリティ　社会

■社員・雇用

企業活動の全ては人財にあり。未来を担う人財を創出する

サニックスグループでは、経営戦略の中でも、特に「人づくり」を重点課題の一つとして位置づけています。

人材育成と雇用の確保、労働安全衛生の推進、そしてダイバーシティの推進と人権尊重に取り組み、優秀な人材の確保、円滑な事業活動の継続、従業員の健康と安全確保、生産性の向上、モチベーションの向上、そして多様な価値観による価値創造力の向上を図っています。

▼重要課題の目標と進捗状況

・平均有給休暇取得率：2030年までに70%以上
・育児休業取得率（男女平均）：2030年までに100%

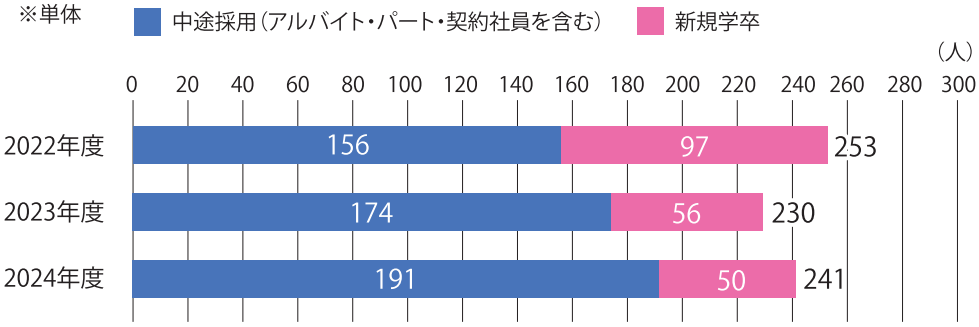
（%）

年度	2022（2023年3月期）	2023（2024年3月期）	2024（2025年3月期）
平均有休休暇取得率	68.6	64.4	56.5
育児休暇取得率	71.2	72.7	69.0
女性管理職比率	3.0	3.0	3.3
男女の賃金格差（パート・有期労働者含む）	65.6	65.9	67.6

▼2024年度の取り組み事例

● 完全週休二日導入
● ウェルネス休暇、アニバーサリー休暇制度（いずれも最大2日/年）の導入により、特別休暇を拡充

採用状況（入社数の推移）



多様な雇用サポート体制

▶メンター制度によるサポート

新規学卒の新入社員には、それぞれメンター（支援者）を付帯します。実務教育係ではなく、メンティー（新入社員）の心情や悩みなどに対して正面から向き合う心強い存在です。

▶定年選択制によるライフプラン形成

60歳または65歳の定年選択制を導入しています。定年後の雇用についても、60～65歳の嘱託社員雇用、65歳以降の契約社員雇用など、柔軟に対応しています。

■安全衛生

労働安全衛生に関する基本方針

安全と心身の健康の確保を企業活動の最も重要な基盤の一つと考え、「労働災害ゼロ」を究極の目標とし、教育を通じて、社員の安全と健康意識の高揚を図り、社員の自発的な行動と企業が協力して、快適な職場環境の形成を目指します。

1. 社員の安全と心身の健康は事業発展の礎であることを認識し、快適な職場環境の形成を目指します。
2. 社員一人ひとりが安全確保に取り組み、全員が「お互いに」「その場で」注意しあえる関係を築き、強固な安全体制を構築します。
3. すべての作業について事前にリスクアセスメントを実施し、危険源を特定、除去、低減するための対策を継続的に実施します。
4. 労働安全衛生関連の諸法令および社内ルールの順守を徹底し、労働安全衛生活動の推進を可能とする組織体制を整備します。
5. 社員一人一人が安全意識を持ち、正しい知識と行動が出来るよう、安全教育と訓練を継続的に実施します。
6. 危険な事象を迅速に報告共有し（休業一日以上の労災が発生した場合）、再発防止策を徹底します。

労働災害に関する目標と実績（2024年度）

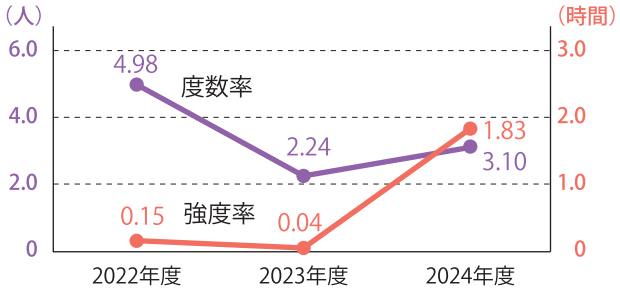
【最重点目標】

1.労働災害による死亡者ゼロ
2.労働災害による休業4日以上ゼロ
3.過重労働による健康障害防止のため80時間超ゼロ
4.健康診断受診の徹底
5.リスクアセスメントの実施による労働災害と健康障害防止

【最重点施策】

- 作業毎にリスクアセスメントを実施して休業災害リスクを低減させて残留リスクの手当によりリスク管理を行う。
- 安全衛生教育による安全衛生の意識の高揚を図り自主的な安全衛生活動を促進させる。
- 全社安全衛生会議を中心とした店社による安全衛生パトロールを通じて職場の問題を洗い出し店社による対応を通して豊かな生活を営むための職場環境の整備を行う。
- 健康診断は指定した期間内での受診と有所見者の再検査の勧奨と治療の実施を定着させる。
- 化学物質管理者による通知対象物の化学物質のリスクアセスメントと対策の徹底による有害物による労働災害の防止を推進する。
- 協力会社を活用した長時間労働の撲滅並びに本社主体の統括管理の実施による物損・人身事故の撲滅を図る。

【度数率（発生頻度）と強度率（重さの程度）の推移】



度数率（100万時間あたりの労働災害による死傷者数）

$$\frac{\text{労災による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1{,}000{,}000$$

強度率（1,000時間あたりの労働損失日数）

$$\frac{\text{延べ労働損失日数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1{,}000$$

安全衛生管理活動の事例

■ヒヤリハット事例の共有・活用

各事業所で随時記録した事例を事業本部に提出し、共有・分析しています。また、危険度の高い事例は、毎月の会議で協議し、対策・ルールの見直し・改善を行っています。

ヒヤリハット報告書共有の例

■安全大会（環境資源開発事業部門）

搬入車両誘導方法の再確認

VRを用いた危険体験

毎年、工場ごとに趣向をこらした安全大会を企画・運営し、事故・災害防止への知識と意識を高めています（写真は、2024年度・ひびき工場の例）。

■社員貢献活動

スポーツ・文化国際交流振興を通じて青少年を健全に育成する

サニックスグループは、国際的なスポーツ大会や文化イベントを実施し、ユース世代選手の育成と国際交流の場を提供しています。出場選手にとっては、海外選手との真剣勝負に加えて、競技以外でも、生活をともにしながらコミュニケーションを図り、お互いの文化への理解を深める良い機会となっています。

ユース世代のスポーツイベント歴代参加者数
（ラグビー・サッカー・ハンドボール・新体操・柔道）
44ヵ国・地域から約58,000人
（2025年3月末現在）

▼重要指標の進捗状況

年度	2022（2023年3月期）	2023（2024年3月期）	2024（2025年3月期）
スポーツ大会の開催	○	○	○

▼2024年度の取り組み事例　下記の大会・イベントへの協賛

※実績は、2025年3月末現在。

サニックス ワールドラグビーユース交流大会

2000年から、毎年4月下旬～5月上旬に開催。
女子（7人制）は2013年から。
【主催：(公財)日本ラグビーフットボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】

■歴代参加国・地域
オーストラリア、カナダ、中華台北、イングランド、フィジー、フランス、アイルランド、イタリア、韓国、ナミビア、ニュージーランド、ロシア、サモア、スコットランド、南アフリカ、タイ、トンガ、アメリカ、ウルグアイ、ウェールズ、日本
（2024年までの累計参加者：14,488人）

サニックス杯 国際ユースサッカー大会

2003年から、毎年3月下旬に開催
【主催：（一社）九州サッカー協会、（一財）サニックススポーツ振興財団】

■歴代参加国・地域
オーストラリア、ブルガリア、中国、中華台北、イングランド、フランス、インド、イタリア、韓国、マレーシア、オランダ、ニュージーランド、ロシア、タイ、アメリカ、ウズベキスタン、ベトナム、日本
（2024年までの累計参加者：8,785人）
※女子の国内大会も2014年より実施
（同累計参加者：2,550人）

サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会

2008年から、毎年10月下旬に開催
【主催：九州ハンドボール協会、（一財）サニックススポーツ振興財団】

■歴代参加国・地域
カナダ、中華台北、フランス、ドイツ、香港、韓国、オランダ、タイ、日本
（2024年までの累計参加者：4,270人）
女子大会は2013年より開催。

サニックスＣＵＰ国際新体操団体選手権

2003年から、毎年11月下旬に開催※ ※2012年度までは国内大会。
【主催：（一財）サニックススポーツ振興財団、㈱グローバルアリーナ】

■歴代参加国・地域
オーストラリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、中国、中華台北、香港、カザフスタン、韓国、リトアニア、マレーシア、ロシア、タイ、日本（2024年までの累計参加者：12,804人）

2017年より、対象の年齢層を上げた「サニックスOpen新体操チーム選手権」を1月に、国内男子による「SANIXCUP男子新体操競演会」を2月に開催。
（2025年までの累計参加者：サニックスOpen934人、SANIXCUP男子726人）

サニックス旗 福岡国際中学生柔道大会

2003年から、毎年12月に開催
【主催：九州柔道協会、（一財）サニックススポーツ振興財団他】

■歴代参加国・地域
オーストラリア、ベスラン、ブルガリア、チェチェン共和国、中国、中華台北、ドイツ、香港、イスラエル、韓国、ラトヴィア、モンゴル、オランダ、パレスチナ、ルーマニア、ロシア、シンガポール、スロベニア、南アフリカ、スリランカ、アラブ首長国連邦、アメリカ、日本
（2024年までの累計参加者：13,664人）

グローバルアリーナ ブルガリアフェスティバル

2001年から、毎年開催※ ※2001年は12月、以後9月。
【主催：（一財）サニックススポーツ振興財団、（株）グローバルアリーナ】

■趣旨
ブルガリアの文化を紹介するとともに、日本とブルガリア双方向の異文化・国際交流を図る。来日するカザンラック民族舞踊団は、グローバルアリーナでのイベントの他、各地の小中学校や福祉施設も訪問。

★マークの写真は©MasafumiONO